

# めぐみイエス・キリスト教会

2023年7月9日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第665号」



## 2023年標題聖句

### 第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 402

【交読文】 No.32 詩篇第103篇 p. 905

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となるために」

【聖書朗読】 使徒の働き28章11節～22節(新約p. 294)

【礼拝説教】 《ローマについて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ●ポイント1.「シラクサ」と「レギオン」と「プテオリ」とは？

■シラクサ シシリー島の東南部の港町。

■レギオン イタリア半島の南西端にあったギリシヤ人の植民地。

■プテオリ「泉」という意味のラテン語を音訳した地名。イタリア半島ナポリ湾北岸の町。パウロはを乗せた船はここに上陸した。ここから、整備されたアッピヤ街道に出た。

### ●ポイント2.「アピイ・フォルム」と「トレス・タベルネ」とは？

■アピイ・フォルム アッピウスの市場という意味。アッピヤ街道を造ったアッピウスの名に従って命名された。ローマから70キロの所にある宿場町で旅行者はここで馬を乗り換えた。

■トレス・タベルネ 「3軒の宿屋」という意味。アッピヤ街道沿いに、アルバノ山のふもとにある宿場。ローマから約48キロの地点。パウロは、ここで、ローマのクリスチャンたちの出迎えを受けた。聖書ではこの地が最後の宿泊地として出てくるが、さらに30キロほど進んだ地点のアリキヤにも泊ったという言い伝えがある。

### ●ポイント3.「パウロの思いと願い」と「預言」とは？

#### ※ローマ人への手紙1章9節～13節「まだ見ぬ兄弟達へ」(新約p.297)

1:9 私が御子の福音を伝えつつ心から仕えている神が証ししてくださるのですが、私は絶えずあなたがたのことを思い、

1:10 祈るときにはいつも、神のみ心によって、今度こそついに道が開かれ、何とかしてあなたがたの所に行けるようにと願っています。

1:11 私があなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでも分け与えて、あなたがたを強くしたいからです。

1:12 というより、あなたがたの間であって、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。

1:13 兄弟たち、知らずにいてほしくはありません。私はほかの異邦人たちの間で得たように、あなたがたの間でもいくらかの実を得ようと、何度もあなたがたの所に行く計画を立てましたが、今に至るまで妨げられてきました。

#### ※使徒の働き19章21節「エペソにて」 (新約p.274)

19:21 これらのことがあった後、パウロは御霊に示され、マケドニアとアカイアを通過してエルサレムに行くことにした。そして、「私はそこに行ってから、ローマも見なければならぬ」と言った。

#### ※使徒の働き27章24節「御使いの言葉」 (新約p.292)

27:24 こう言ったのです。『恐れることはありません、パウロよ。あなたは必ずカエサルの前に立ちます。見なさい。神は同船している人たちを、みなあなたに与えておられます。』

## ◎先週の礼拝メッセージ【マルタ島にて】

《アレクサンドリアの船は浅瀬に乗り上げて大破しましたが、276名の乗船者は奇跡的に全員助かりました。パウロは、この島が「マルタ島」であることを知ります。マルタ島とは、「蜜」という意味で、シシリー島の南方にある地中海の小島のことです。

さて、ルカは、マルタ島において、二つの出来事を書き記しています。一つは、まむしに噛まれたパウロが、異常もなく守られた事です。

もう一つは、マルタ島の長官プブリウスの父親が、パウロによっていやされたことです。プブリウスは、マルタ島におけるローマの最高の地位にあり、もともとマルタ島の出身であったとされています。その父親が、発熱と下痢で苦しんで、床についていた所、パウロは彼に手を置いて祈り、主イエスの御名によって癒やしたのです。このことがあって、島中の他の病人たちもやって来て、癒やしを受けました。

神様はパウロによって、マルタ島に大きなリバイバルを起こされたのです。パウロは、3カ月と言う短い滞在期間でしたが、多くの人々を救いに導きました。そして、「マルタ島の人々は、私たちに深い尊敬を表し、私たちが船出する時には、必要な物を用意してくれた。」とルカは書き記しています。実は、すでにこのことが起きることを、主イエスは、よみがえられた時に、弟子たちに預言されたのです。

「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、私の名によって悪霊を追い出し、新しい言葉で語り、その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」と。この言葉の成就を、パウロは身を持って体験したのです。

マルタ島の首都はヴァレッタで、普段、多くの船は、その港に入港し、そこで冬を越します。何と、同じアレクサンドリアの船が、そこに停泊していたのです。パウロ一行は、その船に乗船してローマに向かうこととなります。パウロはついに念願のローマに到着するのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、7月16日(日)午前10時からです。